

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	こうべしりつふきあいこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
26～30	①学校名	神戸市立葺合高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際科	244名
国際科	80	80	84		244	普通科	674名
⑥研究開発構想名	神戸から綾なせ世界。共生への扉を開くグローバル・リーダー育成						
⑦研究開発の概要	国際科の生徒を対象に、「子供」をキーワードとして「世界の共生」のために人権・環境・経済の視点から学習し、活動を通してグローバル・リーダーの育成を目指す。その方策として「四大陸高校生サミット」を開催して共同提言を発信し、その実現のためにNPOを立ち上げて活動を継続する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>葺合高校が育成を目指すグローバル・リーダーとはゆるぎない「MAK^マKS^ス」(M:人間力 A:実践力 K:知識力 S:言語力)を持った人材であり、それを実現させるために16の力を身につけさせることを目的とする。そこで、「世界の共生そして未来を担う子供たちのために何ができるか」を考え、「綾なせ世界、ひらけ共生～あしたを担う子供たちのために～」を合い言葉に、「子供」をキーワードとして「世界の共生」のために自分たちがなすべきことを人権・環境・経済問題の各視点から考察する。たとえば「子供の教育を受ける機会と権利の提供」のテーマで課題研究を行い、活動を通して意識を高め、3年次には「四大陸高校生サミット」を主催し、世界の共生のための持続可能な提言を発信し、その実現のためにNPOを立上げ、活動を継続することを目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>これまでの国際理解教育や国際交流の実績を積み重ね、英語での高いコミュニケーション能力の育成を行ってきた。生徒の実態調査から、論理的に思考し説明する力、事実からその背景や原因を探究し解決策を見つける力、日本や世界各国の文化・歴史についての知識が十分に深められていないことがわかった。さらに、それらの知識を総合して思考し判断する総合的な思索力も不足している。このような現状を打開し、グローバル・リーダーの資質を育てるには、次のような方策が必要であるという仮説を設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地歴・公民科、英語科、国語科を中心に様々な教科が分野横断的に携わることで、幅広い知識を多角的な視点から学習し、論理的な思考力を身につけることができる。 2. 企業インターンシップや海外でのフィールドワーク、各講演会やセミナーなどに参加することで、世界との距離を縮め、言語力と実践力を養うことができる。 3. 各コンテストに積極的に参加し、それぞれのスキルのより一層の向上を図り、中心的な役割を果たす経験を重ねて的確な判断力と全体を牽引する実行力を培う。 <p>(3) 成果の普及</p> <p>本校はこれまでも姉妹校への短期海外研修や台湾への修学旅行、海外の高校とのTV会議など、グローバル人材育成に努めてきた。また、普通科でのSELHiの実施後、その取組は現在も継続して行われている。また、毎年国内外からの視察団を受け入れ、国際科を有する高等学校としての高い発信力を有している。今回のSGH事業の取組では、これまでの人材育成をさらに深化・発展させ、よりグローバルな感覚を持ちグローバル・リーダーとして活躍できる国際科の生徒が育つと考える。また、海外での実践的な活動を行うために、「国際化を目指す大学」への進学に興味関心を抱いてくれる生徒も増えるものと思われる。そして、国際科を中心とした取組が学校全体に広がり、普通科の生徒にとってもグローバルシティズンとしての意識が芽生えることを期待している。</p>					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「子供」をキーワードとして「世界の共生」を目指した取組になるように、「世界の共生～あしたを担う子供たちのためにできること～」をテーマに「人権」「環境」「経済」の観点から、課題研究に取り組む。具体的なテーマ例としては、「災害復興時に子供たちが教育を受ける機会と権利の提供」、「子供たちにとって、より良い水環境の実現」、「子供たちにふりかかる貧困をはじめとする『南北問題』解決」等の課題が挙げられる。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説に基づいた課題研究 Global Studies (以下GS) A～Cを設定する。Aは「知識を深め、それらを多角的、多面的に結びつける能力を育成する」ことを目的とし、全員履修の科目とする。Bは「種々の知識を活かした判断力、表現力、実践力などを育成する」ことを目的とし、これも全員履修の科目とする。Cは「広い視野を持ち、主張と協調のバランス感覚に富んだリーダーシップを育成する」として選択履修の科目とする。 ・国際科 80 名を人権・環境・経済の問題別グループに分け、さらにグループ内を4チーム(5～6名)に分けて調査・研究を行う。 ・連携先の神戸市外国語大学、関西学院大学の教職員の講演や指導助言を受ける。 ・P&Gへのインターンシップや社会貢献の取組についてワークショップ形式で学ぶ。 ・JICAから世界各地で活動した人材を派遣してもらっての講演会や国際協力体験セミナー等に参加する。 ・各問題グループ内のチーム代表(2名×4チーム×3グループ)を海外でフィールドワークを経験させ、実態の報告や改善点を把握させる。 <p>検証評価として、学校設定科目として作った「GS」各科目の評価とともに、つけない「16の力」ごとに評価規準を設定してアンケートや発表、ポートフォリオなどで評価していく。また、事業全体の評価指標に基づいた自己・外部評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンでのフィールドワーク：1年生がマニラのアジア開発銀行やそのプロジェクトを視察し、現地のNPOと交流しながら、援助活動に加わることで、開発途上国の現状を知り、国際援助と開発問題について考察する。子供をテーマに「人権」「環境」「経済」の観点から、それぞれの課題研究に取り組む。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の1単位を減じて「GS1A」を設定 ・教科「英語」の1年の「総合英語」1単位を減じて「GS1A」を設定、2年の「総合英語」2単位を減じて「GS2B」を設定
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 グローバル・リーダー育成の基礎知識、スキル修得のために、全教科に分野横断型の関わりを持ちながら、各科目の中で取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合英語」「時事英語I」などで、コミュニケーション能力、ディベート、プレゼンテーションの基礎と実践を経験する。 ・「国語総合」で論理的思考を身につけ、情報を様々な角度から検証する力をつける。 ・「コンピュータリテラシー」では情報収集やプレゼンテーションのための情報機器の扱い方やソフトの活用を学ぶ。 ・「日本文化紹介」で日本の文化を学習・考察し、海外の生徒に発信する経験をする。 <p>検証評価については教科の評価規準に基づき評価を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報の科学」の1単位を減じて、「コンピュータリテラシー」を教科「情報」に設定 <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 学校行事の中で新入生オリエンテーションワークショップを実施 b. 課外活動として「GSS(グローバルスタディーズササエティ)研究会」の創部 c. 授業外の学習支援システムの確立 d. グローバル・リーダー人材育成のための部署の新設(SGH推進委員会) e. 学校ホームページの充実としてグローバル・リーダー育成などに関するページの作成、本校ホームページ英語版の拡大
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>

ふりがな	こうべりつつぶきあいこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	神戸市立葺合高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	240人(30)
SGH対象生徒以外:	人	30人	人	人	人	人	人	340人(30)
目標設定の考え方: a 平成25年度は国際科1・2年生合計164名を母数とする。平成26年度はSGH対象生徒は国際科1・2・3年生244名、SGH対象生徒以外は普通科1・2・3年生680名（平成26年度より順次80名ずつ増加）、平成27年度はSGH対象生徒は国際科1・2・3年生241名（国際科3年生が81名のため）、SGH対象生徒以外は普通科1・2・3年生759名（普通科3年生が199名のため）、平成28年度以降はSGH対象生徒は国際科1・2・3年生240名、SGH対象生徒以外は普通科1・2・3年生840名を母数とする。 平成30年度には、SGH対象生徒の100%に当たる240名が自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組むことを目標とし、SGH対象生徒以外には普通科生徒全体の40%以上に当たる340名が取り組むことを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	145人(30)
SGH対象生徒以外:	25人	24人	人	人	人	人	人	84人(30)
目標設定の考え方: b SGH対象生徒、SGH対象生徒以外の母数は、aと同様とする。海外留学については意識は非常に高いものの、経済的な理由から極端には増えないが、海外研修に関しては様々な海外研修プログラムや姉妹校との定期的な交流、またSGH独自のプログラムである海外フィールドワーク、アメリカ・オーストラリア・スウェーデン・スコットランド等の姉妹校における「世界の共生～あしたを担う子どもたちのために～」の提言などを軸として、SGH対象生徒の60%程度に当たる145名以上が卒業時まで経験することを目標とする。SGH対象生徒以外も、SGHプログラム以外は普通科生徒も参加の対象のため、卒業時まで10%以上が経験することを目標とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%(28)
SGH対象生徒以外:	%	67%	%	%	%	%	%	25%(28)
目標設定の考え方: c SGH対象生徒、SGH対象生徒以外の母数は、aと同様であるが、本項目は%表示のため、それぞれの年度における実数をaで記載した母数で割ることとする。平成25年度の調査では国際科1・2年生の65%以上が将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと思っている。GSA、GSB、GSCなどの授業や経験を通じて、意識はさらに高まるものと考えられる。よって、平成28年度には80%以上にすることを目標とする。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人(28)
SGH対象生徒以外:	人	6人	人	人	人	人	人	5人(28)
目標設定の考え方: d SGH対象生徒、SGH対象生徒以外の母数は、aと同様とする。GS授業を3学年ともに受講するのは平成28年度からであるが、SGH開始の平成26年度より、グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会に参加することを推奨し、参加する機会を増やすなどを行うことにより、20名以上の入賞者数を目標とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%(28)
SGH対象生徒以外:	45%	50%	%	%	%	%	%	20%(30)
目標設定の考え方: e 平成24年度の国際科卒業生徒は80名、25年度は74名。目標値は、3年終了時に少なくとも英検準1級の合格もしくはは不合格のAレベルを取得している者と考えられる。								
卒業時に「葺合グローバルリーダー育成のルーブリック」において、グローバルリーダーの目標に到達した生徒の割合								
SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%(28)
SGH対象生徒以外:		70%	%	%	%	%	%	25%(28)
目標設定の考え方: f SGH対象生徒全員が卒業時にはGlobal Leaderの16の項目をすべて満たすことを目標とする。平成25年度は、国際科生徒の10%の生徒がSuper Global Leaderに相当する。SGH導入後は、GS2C、GS3C選択者を中心に対象生徒の30%の生徒がSuper Global Leaderの項目を満たして卒業することを目標とする。また、SGHの波及効果として、本校生徒全員が、少なくともGlobal citizenの項目を満たすことを目指す。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
SGH対象生徒:				%	%	%	%	%	60%(30)
SGH対象生徒以外:		48%	51%	%	%	%	%	%	30%(32)
a 目標設定の考え方: SGH対象生徒は国際科80名、SGH対象生徒以外は普通科280名を母数とする。平成25年度については大学受験結果がまだ出ていないため、空白である。平成24年度卒業生の資料に基づくと、国際科79名のうち38名、すなわち48%が国際化に重点を置く大学に進学している。SGHのプログラム導入により、さらに高まると思われる、SGH対象卒業生のうち48名(60%)をこれらの大学に進学することを目標とする。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
SGH対象生徒:				人	人	人	人	人	6人(31)
SGH対象生徒以外:		2人	3人	人	人	人	人	人	1人(31)
b 目標設定の考え方: SGH対象生徒は国際科80名、SGH対象生徒以外は普通科280名を母数とする。SGH対象生徒のうち、海外大学への進学を希望する生徒は16%ほどいるが、実際は経済的な理由などから2~3名(3~4%)が進学するにとどまっている。そこで、海外大学へ進学を希望する生徒を20%以上に引き上げ、実際に海外大学に進学する生徒数を6名(8%)にすることを目標とする。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
SGH対象生徒:				%	%	%	%	%	90%(33)
SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%	%	35%(32)
c 目標設定の考え方: SGH対象生徒は国際科80名、SGH対象生徒以外は普通科280名を母数とする。国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合、上記のaでの目標が60%である。しかし、SGHでの課題研究が人権、環境、経済分野にわたることもあり、専攻分野選択については90%以上の対象生徒に影響を与えることを目標とする。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
SGH対象生徒:				人	人	人	人	人	48人(33)
SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人	人	25人(33)
d 目標設定の考え方: SGH対象生徒は国際科80名、SGH対象生徒以外は普通科280名を母数とする。上記のaにあるように、国際化に重点を置く大学への進学する生徒の割合を60%にすることを目標としていることもあり、これらの大学に進学した卒業生に対しては全員が大学在学中に留学もしくは海外研修を経験するように指導したい。よって、目標は48名以上(60%以上)とする。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
	人	2人	人	人	人	人	人	30人(29)
a	目標設定の考え方： 1年次での問題グループ ⁷ 別代表者の海外フィールドワークに参加(6名)したり、2年次では次年度の「四大陸高校生サミット」開催に向けた準備として、姉妹校を中心にプレゼンテーションを行うための海外研修に参加(15名)することになる。これらの増加分とは別に、海外フィールドワークの情報を提供し、研修参加者数を毎年30名にまで増やすことを目標とする。							
課題研究に関する国内の研修参加者数								
	人	14人	人	人	人	人	人	80人(27)
b	目標設定の考え方： 連携している神戸市外国語大学、関西学院大学やJICA、JEARN主催の研修に参加したり、SGH指定校とのネットワークを構築し、お互い集まって研修できるような会議を実施していく。国際科全員が3年間の間に、少なくとも一度はいずれかの国内の研修に参加することを目標とする。							
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
	校	5校	校	校	校	校	校	10校(28)
c	目標設定の考え方： 姉妹校の7校、またTV会議やライティングディベート等の相手先としてこれまでに海外の高校9校とやり取りしたことがある。しかしながら、継続した取組が実施できている学校は限られている。そこで、課題研究に関する連携について継続的に交流できる学校を、海外フィールドワークや「四大陸高校生サミット」開催を通して増やすことを目標とする。							
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
	人	8人	人	人	人	人	人	70人(28)
d	目標設定の考え方： 課題研究GSA～Cにおいて、神戸市外国語大学、関西学院大学から講師を招いて、初年度20回程度を企画しているが、最終年には35回にまで増やす予定である。また、同時に複数の講座を開催したり、単発の講座ではなく学年進行とともに発展した内容で継続した講座を企画したりすることを目標とする。							
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
	人	2人	人	人	人	人	人	40人(29)
e	目標設定の考え方： 課題研究GSA～Cにおいて、P&G、JICA、ユネスコなどから初年度8回程度を企画しているが、内容を見直し精選しながら20回にまで増やす予定である。リレー形式で講座を企画したり、同時に複数の講座を開催したりして内容の充実を図ることを目標とする。							
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
	人	37人	人	人	人	人	人	80人(28)
f	目標設定の考え方： SGHプログラムの取組を進めていくことで、一人一人の意識とスキルを高め、グローバルリーダーとしての自覚と技能を持たせるために、各種大会参加は必要なものとする。そこで、国際科の生徒全員を、卒業時まで少なくとも一度は様々な大会に参加させることを目標とする。							
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
	人	22人	人	人	人	人	人	30人(28)
g	目標設定の考え方： 現在、国際科1年生81名中、帰国・外国人生徒が21名いる。また、長期(1年間)の留学生も1名いる。毎年、入学してくる生徒の25%前後が帰国・外国人生徒として受け入れている。入試制度で特別枠を設けることは難しいが、広報活動を積極的に行うことで、増加させることを目標とする。							
先進校としての研究発表回数								
	回	2回	回	回	回	回	回	5回(28)
h	目標設定の考え方： これまでも、神戸市の教育課程研究協議会や兵庫県内国際科、英語科設置校研究会で、本校の先進的な取組について発表してきた。SGHプログラムを進めていく中で発表回数を増やしていくとともに、対象地域についても近畿、西日本、そして全国へと広げていくことを目標とする。							
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i		△						○
	目標設定の考え方： 英語での学校ホームページは作成してあるが、SGH事業の取組を含めたページを、1年かけて作成することを目標とする。							
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
	目標設定の考え方：							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	835	841					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							